

令和4年度第2期泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議

第1回事業評価委員会 会議録要旨

開催日時	令和4年7月20日（水）午後6時30分～8時30分
開催場所	泉佐野市役所5階 第一会議室
案件	1 開会 2 委員の紹介 3 事務局の紹介 4 議 事 （1）泉佐野市の状況について（報告） （2）令和3年度実施事業の進捗状況・評価・検証について （3）今後の予定について （4）その他 5 閉会
委員出席者	吉村委員長 道浦副委員長 金野委員 栗本委員 高山委員 鉄谷委員 湯川委員
事務局出席者	北川政策監（兼）市長公室長 福井政策推進課長 田端政策推進課長代理 中上政策推進課係員
創生本部の幹事	奥教育長 松下政策推進担当理事 阪上政策監兼成長戦略室長 中下政策監兼市民協働部長 西納政策監兼生活産業部長 今西中心市街地活性化担当理事 木ノ元郷土芸能担当理事 刀谷政策監兼健康福祉部長 古谷こども部長 家治政策監兼都市整備部長 久禮まちづくり調整担当理事 河野中期財政運営管理担当理事

配付資料

- 【資料1】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会委員名簿
- 【資料2】 泉佐野市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議・事業評価委員会設置要綱
- 【資料3】 国勢調査結果確定値
- 【資料4-1】 地方創生交付金 令和3年度活用実績
- 【資料4-2】 地方創生交付金 令和4年度申請状況
- 【資料5】 令和3年度実施事業評価一覧表
- 【資料6】 PDCAサイクル 進捗管理シート

《開会の辞》

《委員・事務局・幹事紹介》

《委員長・副委員長の紹介》

《資料確認》

《本会議の設置根拠や会議運営にあたっての諸事項説明》

事務局： 只今の説明について、ご意見、ご質問等がありますか。

《なし》

続いて、次第4の議事に入ります。ここからの進行については、先ほども申し上げたとおり、吉村委員長に議長をお願いしたいと思います。吉村委員長、よろしくお願いいたします。

委員長： 委員長にご指名にあがりました大阪公立大学の吉村でございます。

長めの会議となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

では、早速ですが、泉佐野市の状況につきまして、事務局の方からご説明をお願いいたします。

事務局： 《(1) 泉佐野市の状況について報告》

では、(1) 泉佐野市の状況につきまして、総合戦略には全国的に進む人口減少に歯止めをかけるという目的がございますので、泉佐野市の人口の状況等はどのようになっているのかということ、まずご説明したいと思います。

【資料3】をご覧ください。

令和2年に実施しました国勢調査につきまして、昨年11月30日に確定値の発表がございました。本市の国勢調査人口は、令和2年10月1日現在で100,131人、世帯数が43,864世帯となり、前回の平成27年国勢調査人口と比べて835人の減となりました。人口増減率は△0.83%で、前回の0.16%増からマイナスに転じたものの、それでも大阪府内43市町村では13番目に高い数値でありますことから、「なんとか踏みとどまっている」状況でございます。

なお、府内の市町村の状況につきましては【資料3】の後に添付しております3枚ものの資料をご覧ください。

また、本年6月に公表された厚生労働省の令和3年人口動態統計月報年計によりますと、出生数は過去最少、自然増減数は過去最大の減少幅、合計特殊出生率は1.30(△0.04ポイント)で6年連続低下といった状況でございました。

また大阪府下では、合計特殊出生率が1.27と0.03ポイント低下している状況です。

泉佐野市の直近の状況は、全国的に人口減少が進んでいるなか、本市の場合も人口が減(R2.12末99,661人→R3.12末98,840人で△821人【住民基本台帳より※外国人含む】)という結果になっています。やはり、全国的な傾向と同様自然減が増えている一方で、世帯数が増えているのは、閑空関連事業所に就労されている外国人を含む単身世帯や大学生等の単身世帯が増えていることが主な要因であると考えております(R2.12末47,529世帯→R3.12末47,658世帯で129世帯増)。中でも外国人人口については、本市の場合は、交流人口ではなく定住人口として見ており、近年の外国人人口の増加の流れが一転し、コロナ禍では減少となりましたが、ポストコロナに向けて再び外国人人口は増加するものと考えております。(R2.12末1,972人→R3.12末1,854人で118人減)

人口の状況は以上のとおりでございます。

それでは、資料4-1をご覧ください。

地方創生に伴う国の財政支援である地方創生推進交付金の令和3年度の活用実績等についてご報告いたします。

まず、表の見方ですが、表の左上に交付金の種類を記載しており、この交付金を活用充当した各事業を総合戦略に掲げた4つの基本目標ごとに記載しております。表の左側から番号、当該事業の担当課名、事業名、事業概要、決算額、決算額の中の交付金充当額、市の負担となる一般財源額、事業開始年月、事業完了年月、そして、参考としまして、当該事業の進捗管理シートを資料6で綴っておりますので、そのページ数を、備考欄には予算計上時期を記載いたしました。

それでは、「地方創生推進交付金」の活用状況について、簡単にご説明します。平成28年度早々に、地方創生の深化に向けた総額1,000億円を予算規模とする「地方創生推進交付金」が新設され、現在に至っております。この交付金の特徴としましては、事業期間は複数年度も可能とし、安定的・継続的に支援するところにあります。また、2分の1補助と自立性も求められているところも特徴の1つでございます。令和3年度における地方創生推進交付金につきましては、単独・広域連携事業合わせて、「エリアマネジメント活動推進事業」「外国人受入環境整備事業」「関空立国 destinations 活性化推進事業」「新たな生活様式推進事業」「KIX 泉州ツーリズムビューロー事業」「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化事業」の6事業を申請し、事業実施を取り止めた「新たな生活様式推進事業」を除く5事業が交付決定されました。令和3年度における交付金額は資料3ページ最下段になりますが、1億3千744万1,067円となっております。

続きまして、資料4-2をご覧ください。

令和4年度における交付金の申請状況につきまして、平成30年度に地方創生推進交付金対象事業として認められた事業は、事業期間を複数年度(5年)としていることから、5年目の事業の実施にあたり、交付金の申請をしております。番号で言いますと、資料2ページの広域分の3番「KIX 泉州ツーリズムビューロー事業」で、155万5,000円となっております。

また令和元年度に同交付金対象事業として認められた事業として、番号で言いますと資料2ページの広域分の5番「関空立国 destinations 活性化推進事業」で5千153万5千円となっております。

さらに令和2年度に同交付金対象事業として認められた事業として、番号で言いますと資料1ページの単独分の1番「外国人受入環境整備事業」と、資料2ページの広域分の4番「『恋人の聖地』観光誘客連携による地域活性化事業」がございます。この2つの交付金申請額は、合計2千309万8千円となっております。

最後に令和4年度から新たに同交付金の申請をしているものとして、番号で言いますと資料1ページの単独分の2番の「eスポーツ MICE コンテンツ実証計画」と、資料3ページの広域分の6番「『恋人の聖地』広域市町村連携による関係人口拡大に向けたバーチャルコンパクトシティ」がございます。この2つの交付金申請額は5千849万5千円となっております。

以上、単独分2つで6千851万4,000円、広域分4つで6千616万9,000円となっており、6つの事業の合計が6ページの最下段にあります1億3千468万3千円となっております。

なお、この地方創生交付金につきましては、今後とも交付金や基金の活用も含めて、財源の確保に努めていながら、地方創生に向けた取り組みを行っていきたいと考えております。

報告は以上でございます。

委員長： 令和2年度実施された国勢調査の人口や交付金などのご報告でしたが、何かご意見、ご質問等はないか。

〈なし〉

それでは次に（２）令和３年度実施事業の進捗状況・評価・検証について、先に資料等について事務局から説明を受けた後、検証方法と進め方について、ご意見を頂戴したい。それでは、事務局の方からの説明をお願いしたい。

事務局：《（２）令和３年度実施事業の進捗状況・評価・検証について説明》

事業評価委員会のメインとなります令和３年度実施事業の進捗状況・評価・検証についてですが、資料５と資料６を基にして、評価等をしていただくこととなります。

まず、資料５をご覧ください。

令和３年度実施事業評価一覧表としまして、総合戦略に掲げた全事業の評価一覧表で、４つの基本目標ごとに、それぞれの事業を記載いたしております。表の左側から、番号、具体的な施策及び事業名、令和３年度の市の評価、委員会評価、コメント、そして当該事業の進捗管理シートを、次にご説明させていただき資料６に綴っておりますので、そのページ数を記載いたしました。市評価につきましては、裏面の２ページの集計になりますが、評価はＡ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅの５段階評価とし、一番評価が高いのはＡ評価で「目標以上に進捗しており、このまま継続して事業を推進する」で、反対に一番評価が低いのはＥ評価で「目標値または事業自体の抜本的見直しを要する」としました。その集計でございますが、Ａ評価が７事業、Ｂ評価が一番多く１５事業、Ｃ評価が１５事業、Ｄ評価が５事業、Ｅ評価が１事業で、合計４３事業が今回の評価対象事業数となっております。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業につきましては、評価欄を青いセルにしております。これは、コロナ禍の影響で、事業やイベントの一部中止により、その数値が大幅に減少もしくはゼロとなったもの（例：福祉・保育・教育系の事業）であったり、コロナ禍の影響によりインバウンドの減で、その数値が大幅に減少したもの（例：観光系の事業）でございます。そもそも第２期の総合戦略策定時は既にコロナ禍であったため、ＫＰＩ等の数値目標にも一定のコロナ禍の影響を盛り込んではいませんが、それでもやはりその影響は大きいところでございます。しかしながら、それでもって評価を調整・修正することの公平性や統一性、また技術的なものを勘案しまして、シビアな評価にはなりますが、出された数値そのもので判断しております。

あと、一覧表の委員会評価及びコメント欄につきましては、資料６の進捗管理シートでの委員会評価の結果を記入できるようにしており、委員会としてのコメントがある場合は○印を記入するようにしております。

次に、資料６をご覧ください。ＰＤＣＡサイクルの進捗管理シートを事業ごとに作成したものでございます。表紙をめくっていただき、シートの説明をさせていただきますと、まず上段の表では、基本目標、基本的方向、具体的施策、事業名、事業概要を、中段の表では進捗状況としまして、目標事項やＫＰＩ（重要業績評価指標）、現状値を記載しております。そこへ令和３年度の実績値とその達成度を記入しており、この令和３年度の実績が評価の判断材料の１つとなります。

ここで、少し達成度について補足説明させていただきます。事業評価は、事業内容などの評価に加え達成度も勘案して事業全体を評価することとなります。またその指標につきましては、事業の性質上、単年のものや累計のものがございます。そのあたりを表の中の「令和７年度目標値」の横に明記しております。

また、その横にある指標の傾向も補足説明させていただきます。矢印で「右上向き・平行・右下向き」で示しております。これは指標によって、待機児童数のように０を堅持することを目標にした時の「平行」や、不登校生徒数のように減らすことを目標にした「右下向き」で示したものでございます。

なお目標事項ごとに、ＫＰＩ設定根拠やＫＰＩ目標数値の積算根拠も示しております。

そして下段になりますが、令和3年度の市の評価としまして、担当課の評価と進捗状況のコメント、改善としまして、令和4年度の取り組みなどのコメントを記載しております。これらも評価の判断材料になるものと考えております。あと、最下段には、委員会としての評価とコメントを入れる欄を設けております。

また、各シートの右下にはページ数を記載しており、このページ数は先ほどの資料5に記載しているページ数と連動しております。

以上、これらの資料を基に、各委員に評価いただくこととなりますので、よろしく申し上げます。

委員長：何か他にご質問はないか。《なし》

それでは、評価の進め方について、私の方からご提案をさせていただきたい。これから、1つ1つの事業について評価する訳だが、時間的な制約もあるので、基本的には資料を事前にお読みいただいているという前提で、個別の事業については、事務局から補足説明が必要なものだけ説明して頂くということにしたい。そして、評価の方法であるが、市の自己評価に対して、特に皆さまのご意見がない場合には、委員会としては自己評価どおりとさせて頂きたい。ただ、市の自己評価と異なる評価を委員会でする場合には、委員会として、その判断理由のコメントを記すということにしたい。以上のような評価の仕方では進めさせていただいてよろしいか。《なし》

では、その形で進めさせていただく。それでは、評価に入らせて頂くが、4つの基本目標があるので、目標ごとに分けて、評価していきたい。それでは、まず、基本目標①安定した雇用を創出するについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標①の事業について補足説明》

それでは、基本目標①に掲げる各事業の令和3年度市の評価に対する補足説明をさせていただきます。なお、ここからの基本目標ごとの補足説明につきましては、各事業の市の評価がB評価である「ほぼ目標どおりに進捗しており、継続して事業を推進する。」以外の評価となった事業や、B評価でも説明を要するような事業を中心に説明させていただきます。

まず、資料5の評価一覧表の表面をご覧ください。

基本目標①「安定した雇用を創出する」に掲げた事業は7事業でございます。市の評価につきましてはA評価が1事業、B評価が4事業、C評価が2事業となりました。

では、資料6の3ページをご覧ください。「地場産品創出支援事業」ですが、事業概要としましては、ふるさと納税を利用して企業から新たな地場産品の提案を受けて、クラウドファンディングのプロジェクトを実施するものでございます。目標事項①のハードルが高いことから、新たに中小企業者支援事業を設け、目標事項②に中小企業者支援事業を含む交付予定件数のKPIを追加しております。結果、より一層の施策の活用につながり、KPIの数値や達成度が高くなったことから、市の評価としてはA評価としております。

5ページをご覧ください。「地域就労支援事業」ですが、事業概要としましては、働く意欲がありながら雇用や就労を実現できない就職困難者等に対し、地域就労支援事業の活用、相談、資格取得講座への誘導等を行い、一人でも多くの就労の実現に向けて支援するものでございます。KPIである『就労に結びついた就労者数』の実績値が目標値を下回っていることから、市の評価としてはC評価としております。

7ページをご覧ください。「外国人受入環境整備事業」ですが、事業概要としましては、外国人材に対してのワンストップ相談窓口の設置、優良な外国人材の確保・育成を通じた雇用マッチング、地域社会の交流支援などを実施するものでございます。資料5の水色のセルで示したとおり、コロ

ナの影響を受け、外国人就労者の来日が困難となり、実績に繋がらなかったことから、目標事項の①②ともにKPI達成度の進捗が思わしくないところがございますが、そのような状況下でもポストコロナを見据えた動きをしていることから、市の評価としてはC評価としております。

基本目標①の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標①の各事業について、何かご意見・ご質問等はないか。

委員： 3ページの「地場産品創出支援事業」について、②目標事項の部分で「予定」の意味をおしえていただきたい。

幹事： 件数として記載させていただいた分は寄附募集をしたプロジェクト数となる。事業実施のスケジュールはそれぞれ異なっているので、令和3年度で既に補助金をお渡ししているものもあれば、進捗途中で補助金をお渡ししていない分もある。ただ、プロジェクトとしては成立しているので、補助金をお渡しする「予定」である。

委員： 了解しました。

委員長： 他、いかがか。

委員： 5ページの「地域就労支援事業」の評価について、令和3年度が9人に減少した理由を教えてください。また、就労相談者件数とはどういった形で推移しているのか教えてください。

幹事： 本来この事業は就労支援の対象者が就職に繋がるという事業である。コロナ禍の影響で、緊急事態宣言により外出自粛要請の背景があったり、企業側も雇用調整助成金を使って雇用を維持しているところではあるが、新規雇用が就職につながりにくい分野となっている。

委員： ありがとうございました。

委員長： 他、いかがか。

委員： さきほどの5ページの「地域就労支援事業」について、決算額4,000円の使い道はなにか。

幹事： 資格取得の助成金となっていて、件数は1件となっている。

委員： 7ページの「外国人受入環境整備事業」について、令和3年度の実績は「－」であるが、0人の認識でよろしいか。

幹事： おっしゃる通りである。

委員長： 他、いかがか。

副委員長： 7ページの「外国人受入環境整備事業」について、実績は0人であるのに決算額24,283,450円

の使い道はなにか。

幹 事： 施設運営・人件費となる。

委員 長： 他いかがか。《なし》

基本目標①についてはよろしいか。それでは基本目標①の事業については、市の自己評価の通りとさせていただきます。

次に、基本目標の②であるが、定住魅力の強化により泉佐野市への新しい人の流れをつくるというところについて、事務局から補足説明をお願いしたい。

事務局：《基本目標②の事業について補足説明》

それでは、基本目標②に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料5の評価一覧表表面の中段の表をご覧ください。

基本目標②「定住魅力の強化により泉佐野市への新しいひとの流れをつくる」に掲げた事業は9事業でございます。市の評価につきましても、A評価が1事業、B評価が2事業、C評価が1事業、D評価が4事業、E評価が1事業となりました。

引き続き、資料5の評価一覧表の中段をご覧ください。基本目標②のうち、②観光による交流人口の拡充、そして③MICE誘致の推進に紐づく事業全てにつきましても、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しております。これは、コロナ禍の影響によるインバウンドの減・観光客の減などにより、そのKPIの数値が低迷している状況でございます。資料6の9ページから13ページまでがその該当事業でございますが、先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価、D評価となっております。

次に、資料6の14ページをご覧ください。「ふるさと応援寄附金事業」ですが、事業概要としましては、全国の寄附者と繋がりを図ることにより、地元特産品のPRや販売促進、観光誘致につながることで、地元企業・地域の活性化をめざすものでございます。目標事項である寄附件数の達成度が大幅に目標値を上回ったことから、市の評価はA評価としました。

次に、資料6の16ページをご覧ください。「新たな生活様式推進事業」ですが、この事業は、本市の交通利便性を活かしサテライトオフィス等の拠点整備を行うことにより、地元企業とのマッチングのサポートやワーケーションの取り組み等を推進することで、新たな国内需要にシフトし、低迷している地域経済の再生へ導くものでございます。しかしながら、この進捗管理シートの評価欄にもありますとおり、整備予定のサテライトオフィスを民間事業者が複数整備したため、市が行う必要ななくなったことや、新型コロナウイルス感染拡大のため、ワーケーションなどの人の移動を伴う事業の実施が困難となったこと、また観光庁などの国の補助金を活用できたこと等から、事業実施を取り止めております。従いまして、実質的には事業自体の抜本的な見直しの扱いとして、市の評価はE評価としました。

基本目標②の補足説明は以上です。

委員 長：それでは、基本目標②の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員：14ページの「ふるさと応援寄附金事業」の改善欄について、発送遅延によるクレームの発生、品質管理・配送管理等の「守り」の部分を強化とは、具体的にどういうことなのか。

幹 事： 発送遅延については、注文過多となり、事業者の発送が追いつかなくなった。また、年末にかけて需要が高まる中、在庫設定の見誤りがあった。今後、在庫管理の徹底、市としての事業者の管理を改善する。

委員長： 他、いかがか。

委員： 13ページの「地方版 MICE 誘致推進事業」について、①目標事項で、誘致成功件数は3件となり達成度100%を維持しているが、②目標事項の宿泊参加者数は159人で達成度2.7%となり、少ない。MICE 誘致件数は成功しているのに、宿泊参加者数が少ない理由はなにか。

幹 事： 大小規模の MICE 開催があり、参加者の居住地でも影響がある。コロナ禍の影響もあり、他府県をまたぐ移動が難しく、宿泊に繋がっていない。

委員： 了解した。

委員長： 他、いかがか。

委員： ポストコロナで進めていくのか新たな生活様式として進めていくのか、KPI を変更する予定はあるのか。

事務局： 第2期総合戦略を策定するときには、既にコロナ禍であったため、KPI の設定もコロナ禍で厳しい状況かつV字回復を見越して策定している。年月が経ち、コロナの状況が厳しくなってきた場合、必要に応じてKPIの見直しは起こりうると考えているが、原則的には、コロナの影響を踏まえていることをご理解いただきたい。

委員： 承知しました。

委員長： 他、いかがか。

副委員長： 8ページの「住宅総合助成事業」について、事業概要には町会・自治会加入を条件としてあり、改善点のところでは、それらの要件を無くしと記載しているが、町会・自治会への加入が少ない状況をどのように考えているか。

幹 事： 都市計画課としては、経済対策・人口増大の施策を継続していきたい。町会・自治会加入促進の事業については、自治振興課で対応させていただいている。

委員長： 他、いかがか。

基本目標②の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただきたいがよろしいか。《はい》

それでは、そのようにさせていただく。

続いて、基本目標③「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、事務局から

補足説明あればお願いをする。

事務局： 《基本目標③の事業について補足説明》

それでは、基本目標③に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料5の評価一覧表表面下段の表をご覧ください。

基本目標③「結婚・出産・子育ての希望をかなえる」に掲げた事業は14事業でございます。市の評価につきましては、A評価が2事業、B評価が6事業、C評価が5事業、D評価が1事業となっております。

引き続き、資料5の評価一覧表の下段をご覧ください。基本目標③のうち、①安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくりにおける18番と20番、②児童・生徒の学力・体力の向上・キャリア教育の推進における25番と26番、③国際交流の推進における27番、そして④仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の啓発における28番につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しております。これは、コロナ禍の影響による活動の中止や縮小、また事業の中止や縮小などにより、そのKPIの数値が低迷もしくは実績が無い状況でございます。資料6の18ページ、20ページ、25ページ、26ページ、27ページ、28ページがその該当事業でございますが、こちらも先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価、D評価となっております。

次に資料6の17ページをご覧ください。「さのっ子ナビ（電子母子手帳）による子育て支援」についてですが、事業概要としましては、妊娠中の役立つ情報をはじめ、予防接種のスケジュール管理や健診記録など、妊娠から出産、子育てまでの支援を行うものでございます。目標事項の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

22ページをご覧ください。「ICT活用教育推進事業」についてですが、事業概要としましては、市内小中学校にPC端末等の環境整備を行うとともに、教職員がICT機器を効果的に活用できる環境整備も行うことで、よくわかる授業づくりと学力の定着・向上をめざすものでございます。目標事項の「授業におけるPC端末の月平均利用回数」の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

24ページをご覧ください。「泉佐野市の未来を創る教育事業」についてですが、事業概要としましては、全国学力・学習実態調査の結果を踏まえ、重点支援小学校への支援策として「学力向上アドバイザー」を配置するなど、市域全体の学力向上を図るものでございます。目標事項の「全国学力・学習状況調査の平均正答率の差」につきまして、①の算数は目標以上に進捗しているものの、②の国語については達成度が低かったことから、総合的な判断として、C評価としました。

29ページをご覧ください。「泉佐野市結婚新生活支援事業」についてですが、事業概要としましては、新婚世代の住居費及び引っ越し費用を支援することにより、結婚に伴う経済的不安の軽減を図るものでございます。目標事項の「結婚新生活支援事業補助金交付件数」の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

基本目標③の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標③の各事業について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 28ページの「ワーク・ライフ・バランスの実現」の啓発講座について、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一定期間において女性センターを閉館とあるが、講座回数は目標値以下であるが、

コロナ前ではどのような講座が開かれていたのか。

幹事： 生涯学習センターの中に女性センターがあり、コロナの影響によって生涯学習センターが閉館している状況であった。具体的な講座としては、父親と子どもの料理講座や、女性が自立していくための研修講座を年6回の回数で企画していたが、閉館していることもあり、4回しかできなかった。

委員： ありがとうございます。

委員長： 他、いかがか。

委員： 29ページの「泉佐野市結婚支援生活事業」について、実績値が目標値より超えているが、最終予算額と決算額が同じである。これはどういった理由か。

幹事： 補正をし、増額させていただいた。

委員： 了解した。

委員： 27ページの「国際理解教育の充実（英語教育の充実、国際交流）」について、目標通りに進捗しており、B評価であるので、前向きなコメントに修正していただきたい。

幹事： 英語研修においては、海外に出ることができない状況であった。また、目標事項の文化交流事業数も当初はオリンピックのホストタウンでもあり、交流を考えていたが、実施できなかった。実施できたこととしては、これまでの通りの教科の学習では18回できたが、自慢できるようなことは書きにくい状況である。

委員長： 高山様のご意見では、実施できたことに対してポジティブに表現いただくことでしょうか。

委員： そうですね。目標事項②については、文化交流事業を実施しているので、実施したというコメントをご記載いただきたい。

幹事： タブレットを用いて、場所問わず交流できている部分もあるので、そのような部分を評価するように記載させていただく。

委員長： コメントだけ微調整させていただくということで。他、いかがか。

委員： 23ページの「放課後児童対策事業」について、評価が「B」となっているが、KPIの数値が目標値を超えているのでA評価でもよいのではないか。

幹事： コロナの状況で、保護者のニーズに応えることができなかった部分もあり、B評価が妥当かと考えている。

委員： 承知しました。

委員長： 他、いかがか。

委員： 22 ページの「ICT 活用事業推進事業」について、5,400 万円の予算を執行しており、目標が平均 20 回以上/月となっているが、分母はなにか。

幹事： 小中学校 18 校あるけれども、本文にも書かれているように教員の指導できる技能 64%を基準にして設定しており、20 回/月を目標としているが、これからも頑張っ取り組んでいきたい。

委員： 子どもたちのパソコン能力が成長することはよいことだと思うので、20 回とは言わず頑張っいただきたい。

委員長： 他、いかがか。

委員： 30 ページの「婚活イベント等の共催・後援など（出会いの機会創出事業）」について、合計特殊出生率が全国平均 1.3 で、泉佐野市が 1.27 というなか、人口を増やすにあたって合計特殊出生率が 2 を超える必要があると思いますが、合計特殊出生率を上げる取り組みをどうするかをご記載いただきたい。

事務局： まち・ひと・しごと総合創生計画自体が少子化を食い止めて人口を増やすことの事業で、基本目標①～④となる。全ての事業がつながって、最終的には人口が増えるということで市としては考えている。回り道かもしれないが、ひとつひとつ手を打って進めていきたいと考えているので、ご理解いただきたい。

委員長： ありがとうございます。全体に関わるコメントとなりました。他、いかがか。

委員： 25 ページの「家庭への支援事業（スクールカウンセラー等による相談）」について、不登校が増えているのは、カウンセラーが活動できなかったのか、コロナによる影響なのか。

幹事： コロナで学校閉鎖等の状況が増え、今まで通り相談体制は整えているが、コロナの影響・休んでいる影響で生活習慣が維持できなかったことが、不安や意欲低下などの心理的影響を及ぼしていると分析している。

委員： 小学生の数値が一気に上がっているので心配である。

委員長： 他、いかがか。それでは、基本目標③の事業については、評価については市の自己評価のとおりとさせていただきます。《はい》

27 ページ部分のコメント部分の文言を修正いただくことでいかがでしょうか。《はい》

次に基本目標の④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」について、事務局から補足説明をよろしくお願ひしたい。

事務局：《基本目標④の事業について補足説明》

それでは、基本目標④に掲げる各事業に対する補足説明をさせていただきます。

資料5の裏面の上段をご覧ください。

基本目標④「時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する」に掲げた事業は13事業でございます。市の評価につきましては、A評価が3事業、B評価が3事業、C評価が7事業となっております。

引き続き、資料5の評価一覧表の裏面をご覧ください。基本目標④のうち、①交通ネットワークの整備における31番、②市民が地域防災の担い手となる環境の確保における35番、④高齢者の健康づくりにおける38番、そして⑤地域づくりにおける42番につきまして、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業として、市の評価欄を青色のセルで表記しております。これは、コロナ禍の影響によるインバウンドの減・観光客の減、あるいは活動の中止や縮小、また事業の中止や縮小などにより、そのKPIの数値が低迷もしくは実績が無い状況でございます。資料6の31ページ、35ページ、38ページ、42ページがその該当事業でございますが、こちら先ほどの評価方法の説明でもお伝えしましたとおり、出された数値そのものでシビアな判断・評価を行ったことにより、B評価やC評価となっております。

次に資料6の32ページをご覧ください。「泉佐野市大防災訓練」についてですが、事業概要としましては、11月第一日曜日の「市民防災の日」に市域全体で地域の自主防災組織を主体とした大防災訓練を実施するものでございます。目標事項の防災訓練参加人数の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

33ページをご覧ください。「地域防災の担い手の確保」についてですが、事業概要としましては、災害等に関する正確な知識を習得し、地域における防災・減災リーダーの育成を図るため、防災士資格習得研修を実施するものでございます。目標事項の防災士の資格習得人数の達成度が100%を超えたことから、A評価としました。

34ページをご覧ください。「地域の絆づくり登録制度」についてですが、事業概要としましては、避難行動要支援者に対し、あらかじめ市に登録していただき、地域の支援団体や関係機関とその情報を共有し、平常時の見守りや災害が発生したときの避難支援活動、安否確認に役立てるものでございます。目標事項の①についてはKPIが目標以上に進捗しているものの、目標事項②については達成度が低かったことから、総合的な判断として、C評価としました。

36ページの「泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営」についてですが、目標事項①の「調達電力に対する再生可能エネルギーの割合」の達成度が目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。しかしながら、このシートの下段にある改善(A)欄にも記載がありますが、今後の取り組みにより改善が見込まれることを申し添えいたします。

39ページをご覧ください。「防犯推進事業」についてですが、事業概要としましては、町会等が自ら管理するLED式防犯灯の整備することに対し補助金を交付することにより、地域住民の自主防災意識の高揚に寄与することを目的とするものでございます。目標事項①の実績値や達成度について、目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としました。

40ページをご覧ください。「町会連合会の加入促進事業への補助金」ですが、目標事項①の「町会加入率」の達成度が目標どおりに進捗したとは言えないため、C評価としましたが、令和4年度につきましても、新規加入世帯に対する「さのぼ」ポイント付与事業や、町会・自治会へのインセンティブとして、新規加入世帯1世帯あたり5,000円の報奨金を町会・自治会へ交付する制度を継続、加入勧奨を進めていくこととしています。

43ページをご覧ください。「キャッシュレスや地域通貨の活用促進」についてですが、事業概要としましては、官民連携による地域ポイント「さのぼ」を通じて、地域外への経済流出を防ぐこ

と、および新たな地域内経済への流入を増やすことで、地域内経済循環を高め、自立した地域経済の活性化を図るものでございます。目標事項の①「地域内消費額」について目標以上に進捗しており、また目標事項の②「カード会員数」も概ね目標値に近いことから、総合的な判断として、A評価としました。

基本目標④の補足説明は以上です。

委員長： それでは、基本目標④について、ご意見・ご質問いかがか。

委員： 32ページの「泉佐野市大防災訓練」について、飛躍的に参加者が増えたのはなぜか。

幹事： 町会・自主防災組織への依頼、市役所内の参加もあり、大防災訓練への参加者が増えた。

委員： 承知しました。

委員長： 他、いかがか。

委員： 40ページの「町会連合会の加入促進事業への補助金」について、8ページの町会加入の要件を無くすことや、40ページでは町会加入を促すことは矛盾に感じるがいかがか。

幹事： 都市計画課からの答弁については、これまでは家を新築して町会加入で「さのぼ」250,000ポイントという事業である。自治振興課の施策としては、引っ越し等で町会加入すると、加入した世帯には「さのぼ」5,000ポイントを付与し、加入された町会には5,000円の報奨金を交付する事業である。また、町会が主体という位置づけで、町会と市と一緒に加入勧奨を実施しているが、コロナの影響もあり昨年度の実績は0である。けれども、ポイントが伸びてきているのは事実であるので、住民も町会加入の意識が高まってきている印象があり、都市計画課の事業とは矛盾しているとはならないと考えている。

委員： 町会加入の要件を無くすことをしなくてもよいのでは。

幹事： 都市計画課の事業では、町会加入が必要ないと考えてはいないが、それよりも家を建てていただくことや空き家をリフォームして住んでいただくことに優遇措置を行い、今まで以上に泉佐野市に入っていただく。次のステップとして自治振興課で町会加入を検討していただくことで、都市計画課では町会加入を外させていただいた。

委員： 町会加入が無ければ、ポイント付与はなくなるのか。

幹事： 都市計画課の事業では、家を建てていただいて、引越しして来られた方は250,000ポイントを付与する。

委員： 町会加入は条件？

幹事： 令和3年度まではそうであったが、令和4年度からは外させていただいている。

幹 事： 新築で家を建てていただいて町会加入していただければ、250,000 ポイントを付与する。引越してきて、町会加入していただければ、5,000 ポイントを付与する。町会加入で5,000 ポイント付与する事業に関しては、継続していく。

委 員： 了解した。

委 員 長： 他、いかがか。

委 員： 40 ページの「町会連合会の加入促進事業への補助金」の評価について、加入率減少の原因については算出方法を含め分析が必要とあるが、どういう趣旨かを教えていただきたい。

幹 事： 町会加入には、一般家庭と事業所が含まれる。例えば、老人ホームに入った世帯全部加入とするので差異がでてくる。一概に町会加入率という言い方がよいのか分析が必要となっている。

委 員： 目標値を設定する際には、計算式のロジックがあるかと思いますが、目標値のときに設定した割合と現在の状況を踏まえて算出方法を変更するとなると、時系列に評価できないようになるかと。

幹 事： 目標値 67%は過去最高値を記載している。泉佐野市の世帯数に対して、町会組織が配っている泉佐野市報に対して割り出した数値である。町会加入率イコールではなく、市報配布の割合となっている。

委 員： 世帯のうちに町会加入している人に配っているであろう市報枚数が分子ということか。

幹 事： その通りである。

委 員： 現在の実績値はどのように算出されているのか。

幹 事： 同じ方法である。

委 員： 算出方法の分析とは、目標値も含めて見直しするということか。

幹 事： 本当の町会加入率も調査していて、各町会に協力依頼して数値を集めている。結果的には、市報の算出方法とほとんど一致していることもあり、どちらを基準とするかも分析して検討していく。

委 員： 現在の目標値と実績値は同じ算出方法か。

幹 事： その通りである。

委 員： 36 ページの「泉佐野電力及び泉佐野ガスの運営」のについて、目標値が徐々に上がっているのはどういう計算根拠なのか。

幹事： ため池の再生可能エネルギー・庁舎では太陽光を採用しており、徐々に上げていく計画である。令和5年度のため池太陽光発電の稼働により急激に上がる。また、再生可能エネルギーCO2の削減に向けて、太陽光以外の再生可能エネルギーがあるかを事業委託して計画を立てており、再生可能エネルギーを模索している。

委員： 令和5年2月28日のため池太陽光発電施設の稼働については一例であり、その他にもいろいろとされているということでしょうか。

幹事： 現時点でも市役所に太陽光パネルを設置して、泉佐野電力に売電している。

委員： これからも増やしていこうという方針なのでしょうか。

幹事： 災害要因のひとつにCO2が環境汚染につながっている。国の方針で、CO2を削減していこうというなかで地域を選択している状況があり、今後泉佐野市もエントリーする方向性である。CO2の削減に向けて、自然の再生可能エネルギーにつなげていくことを目標にしたい。

委員： 泉佐野市の再生可能エネルギーが約2割であり、切迫している状況だと思うが、新しく電気を購入いただく業者も増やしていく方針なのでしょうか。

幹事： 電気を大量に使われる事業者に使っていただきたい。現在は公共施設が中心であるが、50施設ほどは民間での利用者もいる。それを増やしていくことでCO2の削減に貢献していきたい。

委員長： 他、いかがか。

副委員長： 40ページの「町会連合会の加入促進事業への補助金」について、算出方法を変更した方がよいという意見もあるが、8ページの「住宅総合助成事業」で530件の泉佐野ポイントの付与件数があるが、分母が増えていくなかで数値を増やしていくことは難しい気がするので、市で連動されてはいかがか。

委員長： 計算方法を見直す際に、参考とさせていただくことでよろしいか。《はい》

委員： 37ページの「健康マイレージ事業」について、KPIの達成度でみると、A評価でもよいのでは。B評価である理由を教えてください。

幹事： 一時的な結果である可能性もあり、一定順調に進んでいるというところからB評価とさせていただいている。

委員： なぜ健康マイレージの参加者数が増えたかの理由を教えてください。

幹事： 対象者は高齢者に限っていない。さのぼカードの所持者が増えていることも起因しているかと。

委員： 承知しました。

委員長： 他、いかがか。

委員： 34 ページの「地域の絆づくり登録制度」について、C 評価とした理由を教えてください。

幹事： 市民協働部としては、泉佐野市 82 町会の団体の中で自主防災組織を作っているのが 77 町会となっており、その 77 町会のうち協定を結んでいるのが 48 団体となっている。まだ目標値に達していないことから C 評価と判断している。

委員長： 他いかがか。《なし》

それでは、基本目標④の事業については、市の自己評価のとおりとさせていただくということによろしいか。《なし》

それではそのようにさせていただきたい。

それでは、全事業①から④についての評価をさせていただいたが、全体を通じて、改めてお気づきの点や疑問点などはないか。《なし》

本日の評価結果は、事務局で一覧にとりまとめて、後日ご確認をお願いするということにさせていただきます。

27 ページのコメント修正に関して、文言等については委員長の一任でよろしいでしょうか。《はい》

次に次第の（3）今後の予定について、事務局の方から説明をお願いします。

事務局：《今後の予定について説明》

委員の皆さま、ありがとうございました。

今後の予定につきましては、本日、各委員の皆様からいただいた各事業に対する評価やご意見を踏まえ、事務局の方で、評価一覧表として、まとめさせていただき、まとめたものを吉村委員長と調整させていただいたうえで、各委員の皆様へ送付したいと考えております。そして、それぞれご確認いただきまして、もしご意見等があればお伺いし、最終まとめさせていただきたいと考えております。

従いまして、事業評価委員会につきましては、一旦、本日の 1 回で終わらせていただこうと考えております。なお、国の交付金の事業報告で、事業評価について別途、開催する必要のある指示があった場合など、どうしても皆さまのご意見をいただいた方がいいということになれば、またご連絡させていただくこともあるかも知れませんので、その際にはよろしく申し上げます。

そのほか、最終まとめた評価一覧表につきましては、国をはじめ、9 月に開催されます市議会 9 月定例会にて報告する資料にしたいと考えております。

以上でございます。

委員長： 今後の段取りについてご説明いただいたが、こちらでよろしいか。《なし》

それではそのような段取りで進めさせていただく。

それでは次に、次第の（4）その他であるが、皆さまの方から何かあるか。《なし》

《終了》